



住吉大社太鼓橋と古代の入江の名残り

＜参加メンバー＞

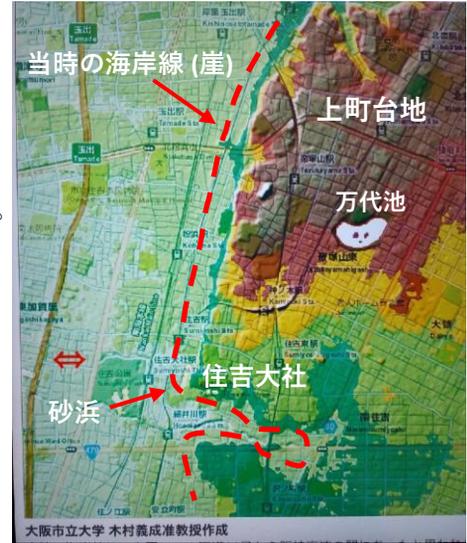
参加メンバー：9人（男性4人、女性5人） 天候：晴れ

＜コースタイム＞南海難波駅10：01～10：14住吉大社駅スタート10：30～高灯籠～住吉大社大鳥居前11：10～浅沢社～住吉大社太鼓橋～うの花苑～12：05大社参拝（第一本宮～第四本宮）～大海神社～12：35生根神社（昼食）13：30～14：15帝塚山古墳～14：35ゴール万代池～南海電車帝塚山駅～難波駅
所要時間：約4H 歩行距離：約6km

＜ウォーキングの概要＞

上町台地の海岸線の崖に着目しながら、北端の大坂城から四天王寺、阿倍野と歩いてきたが今回は台地の南端、海に面した住吉大社を巡る。住吉大社は全国2300社余ある住吉神社の総本山であり古事記・日本書紀に記されているほど古く、大陸への海路の出発点であった。海路に沿って各地に住吉神社が配置され海の神・航海安全の神とされる。

スタートは住吉大社駅、住吉公園を通りまず高灯籠へ向かう。かつては参道の砂浜にあり灯台の役割を果たしていた。そのあとUターンして公園を抜け大社を迂回し「浅沢の杜若」として有名な景勝地浅沢社へ、お隣の大歳社では「おもかる石」で運勢を占ったあと、また元へ戻り大社正面から入る。大鳥居に入って左手には「遣唐使進発」の碑が、右手には国宝「源氏物語瀟標図」屏風の複製があり当時の風景を彷彿とさせる。大鳥居からは朱塗りの太鼓橋を渡り、四角柱の鳥居をくぐると境内には国宝の本宮（第一から第四）が鎮座する。樟の大木が森となっており、おごそかな雰囲気を感じる。続いて隣接する大海神社、生根神社へ。どちらも西門に石段ありその下には当時は白い砂浜と松林が続いていたようだ。生根神社の木陰でゆっくり昼食のあと帝塚山古墳へ。全長120mの前方後円墳、今は周りを住宅が取り囲んでおり窮屈そうな感。古墳を過ぎ帝塚山の高級住宅街を通り熊野街道を横切り万代池へ、上町台地に遺っている唯一の灌漑用ため池で、周りに公園があり市民の憩いの場となっている。ここが本日のゴール。古代の白砂青松の地と歴史を実感できた一日でした。今回で上町台地シリーズは終わりです。 (Gi)



大阪市立大学 木村義成准教授作成



住吉公園駅からスタート



住吉公園駅を通り



高灯籠、当時は砂浜。灯台の役目



住吉大社正門 前は阪堺電車の軌道



浅沢社、杜若は終わっている



大歳社おもかる石
両手で持ち上げて運勢を占う



住吉大社うの花苑 全国の多種あり



住吉大社正門左手の灯籠



万葉歌碑
訪れた万葉歌人の和歌と当時の地形が描かれている。上の石は遣唐使船が碇つか



この浜から遣唐使が進発した。白砂青松の浜。
右上に住吉大社が描かれている



国宝 依屋宗達「源氏物語関屋灣標図」陶板複製。
当時の浜辺の風景と住吉大社の位置関係がよくわかる
左に住吉大社、中央牛車に光源氏、右上の船に明石の君がいる



反橋（太鼓橋）で



傾斜が急、下りは要注意



本宮への入口、鳥居の柱は四角
(珍しい)



第三本宮、第四本宮(右)



第一から第三は直列配置



第一本宮(一番奥に鎮座)



大海神社



拝殿内



境内の井戸”玉ノ井”、上町台地の伏流水が台地の南端で今でも湧き出る



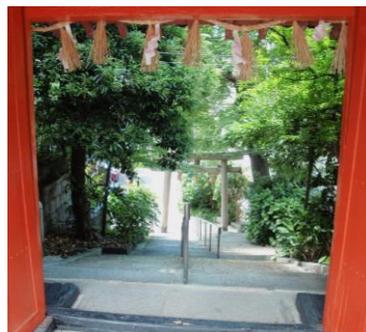
西門の絵馬、↑が現在地付近



西門の石段を下りると当時は砂浜と海が広がっていた左の絵のように。



生根神社



生根神社西門。石段の下は上と同じ風景か。



生根神社境内で昼食
木陰が心地よい





崖の坂道



帝塚山住宅街に行く



明治天皇行幸記念碑



帝塚山古墳。立ち入り禁止



熊野街道を横切る



万代池に到着



住吉大社うの花



住吉大社の大楠、境内に数多い



大楠、若葉の新緑が清々しい